



LCC News Letter 3.

5 October 2010 LCC広報担当

同志社教育の国際競争力

同志社時報・最新130号の特集「同志社教育の国際競争力」で、新しく開校する二つの学校が紹介されています。

D I A (Doshisha International Academy)の設立は、同志社の国際主義教育の推進という大きな流れに沿ったプロジェクトであり、その教育の推進を勢いづける使命も持つ」と大迫弘和国際学院設置準備室長が語っています。

D I A初等部は、文部科学省から授業の55%を英語、45%を日本語で実施することを認められている「教育課程特例校」の指定を受けているそうです。

基本的には、小学校一年生の入学時に英語力がゼロの子どもが、初等レベルの「読み書き算数」を日英両方で、できるまでに育てていくことを目標にしています。

海外での教育、または、家庭環境等である程度の英語力がある子どもについては、かなり、高いレベルの英語力をつけて小学校を卒業するだろうと思えます。

今まで、日本国内でも英語教育に特化した初等教育の学校がありましたが、**D I A**初等部は日英バイリンガル教育であるが**日本語の形成に非常に力を入れるところに大きな特徴**があります。

それは、日本国内で英語だけで100%初等教育を行うことは不自然な環境であるという認識に立っての考えです。今までは、「英語教育」が売り物になっており、英語教育を通して、どういう児童を育成していくかということについて明確ではありませんでした。

D I A初等部では、国際バカロレア（スイスの財団法人国際バカロレア機構が定める教育課程）の初等プログラムPYP (Primary Year Program) に則った児童像・学習者像を目標としています。

一方、**D I S K**Doshisha International School

Kyoto では、世界の多くのインターナショナルスクールが持つ四つの要素、

1. 世界中の子どもたちが集まっているという児童・生徒の多様性、
2. 先生が世界中から来ている教員の多様性、
3. 授業は英語、そして、
4. カリキュラムは世界標準、世界に共通するものを実施する、という、これら四つの条件を整えて日本を代表するインターナショナルスクールに育てるのが目標です。**Diversity (多様性)**が両校を繋ぐキーワードです。

多様性を持つ集団しか生み出せないものを生み出していく。日本の学校は、同一性の強い集団で教育活動をしています。当然、その意味はありますがインターナショナルスクールのキー・コンセプトは多様性です。

国内で育った子どもと海外での生活体験のある子どもが共に**D I A**で、そして、インターナショナルスクールの子どもが加わった小さな国際社会をダイナミックに作り上げていく所存です。
(大迫準備室長談話より)